

2月6日のウクライナ情報

安齋育郎

①モスクワ高級住宅で爆発 5 人死傷(2025 年 2 月 3 日)

ロシアの首都モスクワ西部の高級高層住宅「アーリエ・パルサ」のエントランスホールで 3 日、爆発があった。これまでに 1 人が死亡、4 人がけがをした。

露連邦捜査委員会は、公衆危険殺人や複数人殺人未遂の容疑で刑事事件として捜査を開始したと発表した。爆発に関与した人物を捜索している。

原因や詳しい経緯についてはこれまでに分かっていない。

ガラスや天井などが破壊されたが、火災は起きなかった。建物自体の倒壊や更なる損傷の恐れはないという。

モスクワではこれまでに、ウクライナの特殊部隊が絡む暗殺や未遂事件が相次いでいる。昨年 12 月には露軍中將が住宅から出てきたところを、遠隔操作の爆弾で殺害される事件も起きたばかり。一方、今回の事件も関係があるかは現時点では不明。

スプートニクの情報筋によると、ドンバス義勇兵部隊の創設者のアルメン・サルキシャン氏が重傷で搬送された模様。同氏は 2015 年以降、ウクライナの敵とみなされた人々の個人情報などを公開するウクライナのサイト「ミロトヴォレツ」に登録されていた。

<https://twitter.com/i/status/1886331449332179333>



<https://sputniknews.jp/20250203/5-19551387.html>

②露軍自走迫撃砲 2S4 チュリパン ウクライナ軍司令部を破壊(2025年2月3日)

露国防省は、露軍の自走迫撃砲 2S4 チュリパンが、クラスノアルメイスク方面で鉄筋コンクリート造のウクライナ軍司令部を破壊する様子を収めた映像を公開した。

<https://twitter.com/i/status/1886386111896867060>



③トランプ関税、西側メディアの反応(2025年2月3日)

ドナルド・トランプ米大統領は1日、カナダ、メキシコに25%の関税を、中国からの輸入品に10%の追加関税を課す大統領令に署名した。4日に発効する。カナダ、メキシコ両国はすでに報復措置の導入を決定している。発動されれば、両国に米国市場向け生産拠点を設ける自動車メーカーなどの日本企業にも大打撃となる。

フィナンシャル・タイムズ

トランプはビジネス界や共和党内からさえも批判を浴びている。貿易協会は関税引き上げが一般米国民にとっての消費者物価上昇を招くと警鐘を鳴らしている。

ワシントン・ポスト

関税でカナダは景気後退に陥るだろう。ワシントンのこの行動はカナダ国民を激怒させ、彼らの「ホワイトハウスに裏切られた」という感情を生み出している。

ニューヨーク・タイムズ

メキシコでは自動車産業や電気自動車業界が、カナダでは鉱物加工業が最も大きいリスクに晒されている。

ガーディアン

トランプの一手は全輸入の40%を占める3大パートナー(カナダ、メキシコ、中国)との破滅的な貿易戦争の始まりとなる可能性がある。

日経新聞

世界が恐れていた事態が現実になった。取り返しのつかない事態が生じる前に「貿易戦争」という愚行から引き返せるか。今週訪米する石破茂首相を含む世界のリーダーの見識と覚悟が問われる。



④国務省トップが戦争の裏側を暴露 | ローレンス・ウィルカーソン(2025年2月3日)

ネオコンは何十年にもわたってアメリカの外交政策の議題を設定してきましたが、ワシントンで軍事力を使用する意思決定プロセスは実際にどのように機能しているのでしょうか？さまざまな機関の役割は何で、装置内で最も強力な機関はどこで、個人はどのような役割を果たしているのでしょうか？それでは、知っているはずの人に聞いてみましょう。ローレンス・ウィルカーソン大佐は、退役した

米陸軍将校であり、国務長官の元参謀長であり、活動家グループ「ベテラン・インテリジェンス・プロフェッショナルズ・フォー・サニティ」のメンバーです。ワシントンでの数十年の経験を経て、彼の知識を借りて、アメリカの権力構造がどのように機能し、軍事政治プロセスが実際にどのように機能しているのかを知りたいと思います。

<https://youtu.be/TD-3NCcudW8>



<https://www.youtube.com/watch?v=TD-3NCcudW8>

⑤ロシアがキエフに 3000 機の AI 搭載ドローンを降らせる？プーチン軍の計画でウクライナにパニック発生(2025年1月23日)

ロシアが戦争のさなか大規模な軍事行動を起こしたことで、ウクライナは新たな脅威に直面している。TASS の報道によると、ロシア軍は AI 駆動のミクロブ神風ドローン 3,000 機を受け取ったという。アレクサンダー・グリャズノフが開発したとされるこれらの無人機は人工知能を搭載しており、回避行動中에서도自律的に標的を追跡し攻撃することができる。グリャズノフは、ドローンのモジュール設計を強調し、さまざまな戦場の状況に適応し、厳しい環境下で運用できることを強調した。続報をお楽しみに。

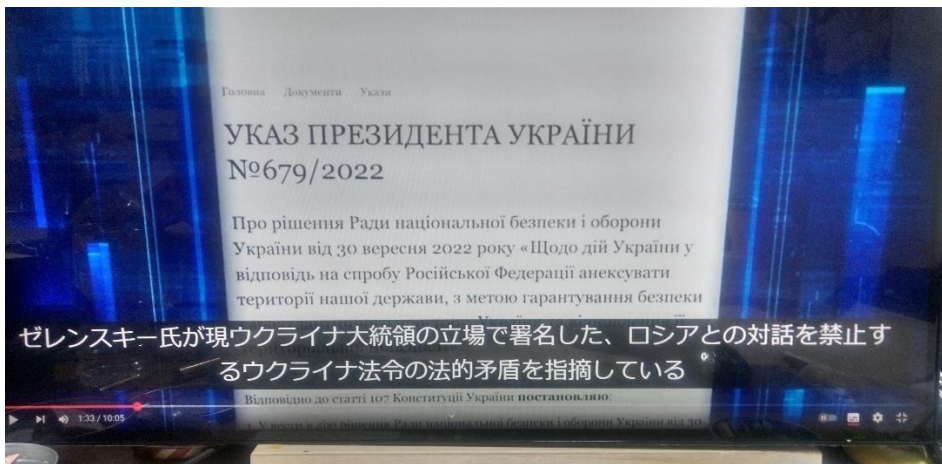
<https://youtu.be/8j424-QJWpk>



<https://www.youtube.com/watch?v=8j424-QJWpk>

⑥プーチンは米国とのみ交渉したいが、ゼレンスキーとは交渉したくないのか？(2025年1月30日)

<https://youtu.be/M93bYGyx64>



<https://youtu.be/M93bYGyx64>

⑦米ロ首脳会談開催地にサウジ浮上 UAE も、ICC には非加盟(KYODO, 2025年2月4日)

【ワシントン共同】ロイター通信は3日、トランプ米大統領とロシアのプーチン大統領による対面会談の開催地にサウジアラビアやアラブ首長国連邦(UAE)が浮上していると報じた。両国ともプーチン氏に逮捕状を出している国際刑事裁判所(ICC)には加盟していない。

両国が安全保障面で米国と緊密な関係を持っていることを懸念する声がロシア政府内にあるという。ロシア政府高官は最近、サウジや UAE を訪問した。

ウクライナ侵攻の終結を目指すトランプ氏は、プーチン氏と早期に会談する考えを繰り返し表明している。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/929f191a398556ee0c52572828bd042902cad563>

〈関連情報〉

米政権、ウクライナ・ロシアと会談の予定 トランプ氏(2025年2月3日)

CNN) トランプ米大統領は2日、記者団に対し、政権がウクライナやロシア、さらに「さまざまな関係者」との会談を予定していると語った。

トランプ氏はアンドルーズ空軍基地で「我々はウクライナとロシアの問題に対処しており、ウクライナとロシアを含むさまざまな関係者との会合や会談を予定している」と述べた。

トランプ氏の発言の前には、ゼレンスキー・ウクライナ大統領の補佐官が同国の支援国に「より徹底したアプローチ」を求めていた。これらの発言の前には、トランプ政権でウクライナ・ロシア特使に任命されたキース・ケロッグ氏が、ロシアとの停戦協定を探る仲介計画とともにウクライナでの新たな選挙を呼びかけているかのような発言を行っていた。

ケロッグ氏は1日、ロイター通信とのインタビューで、延期されてきたウクライナの大統領選と議会選は「実施する必要がある」との見解を示した。

ケロッグ氏は「ほとんどの民主主義国家は戦時中に選挙を行っている。そうすることが大切だと思う」とし、複数の候補者が立候補することに堅固な民主主義の美点があると指摘した。

ゼレンスキー氏の補佐官は、ケロッグ氏の見解を「完全に評価する」のは難しいと述べる一方で、「彼の計画が停戦と選挙だけだとすれば、それは失敗だ」と警告した。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/b7bd4d253cd4459ef254d10383b0051f3834ed50>

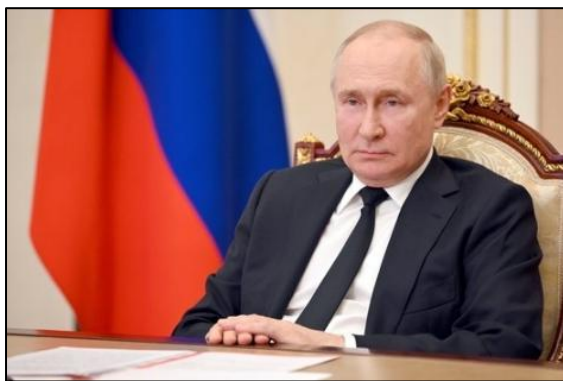
⑧プーチン大統領、欧州指導者に「トランプの足の前で尻尾を振っている」毒舌(2025年2月3日)

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は米国のドナルド・トランプ大統領が、近い将来、欧州政治エリートの間で秩序をつくるだろうと話した。

RIAノーボスチ通信通信などロシアメディアによると、プーチン大統領は2日(現地時間)、国営放送パーベル・ザルビン記者がテレグラムに公開したインタビュー映像を通じて、米国と欧州の関係に対して「トランプの性格とその揺るぎなさから見る場合、彼は相当なスピードで秩序を作り上げるだろうと確信している」と述べた。

続いて「そうすると、彼ら全員が素早く主人の足の前で尻尾をやさしく振るだろう」と付け加えた。プーチン大統領は欧州の政治家たちがトランプ大統領と相対して戦い、米大統領選挙に介入したが、トランプ大統領が大統領選挙で勝利してからは混乱に陥ったと主張した。プーチン大統領はフランスのジャック・シラク、フランソワ・ミッテラン、シャルル・ドゴール元大統領やドイツのウィリー・ブランド、ヘルムート・コール、ゲアハルト・シュレーダー元首相に言及し、過去欧州には自身の信念のために戦う勇気のある世界的政治家がいたが今はそうではないと欧州指導部を批判した。

プーチン大統領は先月27日、ポーランドで開かれたアウシュビッツ強制収容所解放80周年記念追悼式にロシアが招待されなかったことが恥ずかしくておかしいことだと反発した。ナチスドイツの最大規模の強制収容所だったアウシュビッツは、1945年1月27日にソ連軍によって解放されたが、今回の行事にはウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領が出席した。ユダヤ人とポーランド人を虐殺したウクライナの極右民族主義者ステパン・バンデラを英雄視するウクライナ指導部が出席したことは道理に合わないというのがプーチン大統領の主張だ。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/48b1c77dec3c8eda5b1613e61a159e4fba07dcb9/images/000>

⑨EU首脳が3日に会合、トランプ氏への対応や防衛面の協力を協議(2025年2月3日)

【ブリュッセル 3日 ロイター】 - 欧州連合(EU)首脳は3日、ブリュッセルで会合を開き、ロシアに対する欧州の防衛力強化策と、カナダ、メキシコ、中国への関税を決定したトランプ米大統領への対応について話し合う。

トランプ氏は1日、カナダとメキシコからの輸入品に25%の関税、中国からの輸入品に10%の追加関税を4日から課す大統領令に署名した。世界経済を減速させ、インフレを再燃させる恐れのある新たな貿易戦争につながる可能性がある。

今会合は公式な宣言や決定を伴わないが、地政学と対米関係が焦点となる予定。トランプ氏による関税政策が議題になることは確実で、EUも近く同様の措置に直面するのではないかと関係者は懸念している。

トランプ氏はEU加盟国のデンマークに対し、自治領のグリーンランドを米国に譲渡するよう求めており、デンマークへの軍事行動や経済的圧力をかけることも否定していない。

EU首脳は、今後数年間に必要な軍事力、資金調達方法、共同プロジェクトを通じた協力深化についても話し合うとみられる。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/a725eae6acc29b262aec7daafaa9163551013564/images/000>

⑩ダグ・マクレガー大佐:トランプは周囲の人々に乗っ取られている(2025年2月2日)

ロシアに対する西側諸国の過去の政策に対する批判

西側諸国は長い間、ロシアが帝国主義的野心よりも経済協力を選択することを期待して、ロシアに代替案を提供してきた。

その代わりに、ロシアは大規模な軍事生産を続けている。

ロシアとEUの経済および軍事格差

EUの経済規模は、ロシアの17倍である。

講演者は、ロシアのさらなる侵略を防ぐためにEUが断固たる行動を取らなければならないと主張する。

軍事投資の増大を求める

欧州の軍事投資不足は弱さを示し、侵略を招く可能性がある。

欧州諸国は防衛費を十分に支出していないというトランプ前大統領の意見に同意する。

ロシアを実存的脅威として描く

西側諸国が防衛費を十分投資しない限り、ロシアは長期的な危険をもたらす。

この脅威に対抗するための緊急の行動を求める。バルト諸国と東欧諸国のロシアに対する恐怖に対する批判

エストニアなどの国の指導者(カヤ・カラスなど)は、歴史的トラウマの影響を受けたロシアに対する時代遅れの見方をしていると主張する人もいる。

現代のロシアはソ連ではなく、同じ種類の脅威をもたらさないと主張する。

第二次世界大戦との比較

ソ連軍の指揮統制が勝利にどのように貢献したかを論じる。

西側連合は今日、同じ統一性と戦略的明確さを欠いていると示唆する。

ウクライナ代理戦争の失敗

ウクライナにおける西側の真の目的はロシアに危害を加えることであり、ウクライナを助けることではない。

ウクライナは軍事的にほとんど成果を上げずに多大な損失を被ったと主張する。

米国の政策転換を求める

トランプ大統領はウクライナでの米国の損失を削減し、ロシアとの和平を追求すべきだと示唆する。

戦争を続けることは米国とその世界的な地位を弱めるだけだと主張する。西側諸国の指導者とメディアに対する批判

多くの軍人や政治家が紛争継続を支持するよう金銭的な動機を与えられていると主張。

指導者らはウクライナの勝利の可能性について嘘をついており、今や信頼を失うことなく撤退することはできないと断言。

ベトナムとの歴史的類似点

ベトナムとの比較をし、米国は多大な人命を犠牲にして無駄な戦争を行ったと論じる。

ウクライナ紛争は米国の歴史に新たな汚点を残す可能性があるという警告。

最終警告

西側諸国がアプローチを続けると、ロシアは対応をエスカレートさせる可能性がある。

紛争がさらに悪化する前に、直ちに政策転換を要求。

<https://youtu.be/jKcFRrsJYWA>



<https://www.youtube.com/watch?v=jKcFRrsJYWA>